資料 No.5

平成２６年２月県議会　主な論点

【教育委員会制度】

大都市中心の考えを全国一律に福井も含めた地方に広めることでは、福井県の特色ある教育は行われないため、どういう制度改革を行うにしても、本県のような優れた教育が特色を持ってさらに実行できるような内容になることを、我々として絶えず念頭に置く必要がある。[知事－山本正雄議員]

日ごろから学校訪問や校長会との意見交換等を通じ、学校現場の実態把握に努めており、毎月の定例会議のほか、定期的に知事とも意見交換を行いながら、本県教育の推進に責任を持って携わっている。また、いじめ・体罰等の問題には、学校に出向いて調査し、保護者からの相談を直接受けることなども行い、機動的に対応している。
引き続き、知事との意思疎通を図りながら、全国に誇るべき福井の教育力を更に高めるため努力していく。[教育委員長－山本正雄議員]

これまでも、知事と教育委員が定期的に意見交換する場を設け、学力の向上など教育の様々な課題について、十分に意思疎通を図りながら、全国トップレベルの教育水準を実現しているため、制度改革により、大きな影響は生じないと考える。
これからの教育をより良くしていくためには、社会経済の動きなどに対し、学校や教育委員会がスピード感を持って、的確に課題解決に対処していくことが重要であり、引き続き、教育委員と知事が意思疎通を図りながら、全国に誇る福井の教育を更に向上させるよう全力を尽くす。　[教育委員長－関　孝治議員]

【少人数学級の推進】

２３校の小学校３年生で３６人から４０人の学級編制を弾力化し、既にチームティーチングのため１学級に複数配置している教員に担任を任せることで、教員の新たな負担が生じないよう十分配慮し、国の基準を下回る少人数教育を実現したい。
なお、少人数教育の今後の大きな課題は、過度に少人数になっている小規模校の解消であり、市町教育委員会と連携し、地域住民の理解を得ながら、学校、学級の適正規模化を積極的に進めていく。[教育長－山本正雄議員]

【英語教育】

英語教員が授業改善の研究グループを作り、モデル校を中心に、例えば生徒が単語の意味調べや英文和訳に時間を費やす時間を減らし、多くの英文を声に出して読むことや自分の考えを英語で伝える学習など、授業を改めてきている。
また、ＡＬＴは、本県は生徒１人当たり全国一多く、８２名を中学・高校に配置。高校２年生１００名を春休みに２週間、アメリカへ派遣する成果として、センター試験のリスニングでは、本年度も１位で常に全国トップレベルの成績となっている。
国に先駆け、まず小学４年生から歌やゲームを通じて英語が楽しくなる教育を、中学ではラジオ語学番組等も活用しながら、高校教育につなげる指導を行っていく。
[教育長－関　孝治議員]

【高校再編】

奥越明成高校の生徒が希望する進路に進むことができることは、専門技術の向上を目指して、１年生から国家資格にチャレンジし、県内初の総合産業高校の特色を生かした学科を超えて進学に必要な数学等の教科学習を充実したことが成果。
全国高校生食育王選手権の優勝や吹奏楽部の県大会金賞など、部活動でも活躍するほか、七間通りの「からくり人形」の制作や地元観光マップの作成など、地元にも貢献。
若狭東高校も頑張っており、坂井高校もでき、それぞれの高校の特色を生かした教育内容にも、相互に良い高校ができるように役立てる形で支援していく。
[知事－西畑知佐代議員]

平成２６年２月県議会　主な論点

【職業教育】

若狭東高校では、薬草や漢方に関連した希少価値の高い地域特産物の育成策と連携して、熊川くずを用いたプリンやランチメニューを考案。また、キクの一種の「杭白菊」や「ローマンカミツレ」の栽培を始め、授業に活用。

さらに、ＬＥＤ照明で水耕栽培を行う植物工場等が整備され、農薬を使わない薬草の栽培技術を確立し、薬膳料理や健康食品などの開発も期待されることから、地域のレストランや道の駅などで販売までを行う地域と一体となった取組みを進め、地域産業を担う人材を育てる専門教育を向上させてもらいたい。[知事－西本正俊議員]

【教育研究所と嶺南教育事務所】

教育研究所は、全国トップレベルの小・中学生の学力を更に向上し、高校教育につなげる、これからの新しい授業を県内すべての学校で行えるよう、研究と研修を抜本的に変える。

嶺南教育事務所は、従来から教育研究所の若狭支所としての役割を持ち、嶺南地域の教員を対象とした研修を実施しており、教育研究所の機能強化は、嶺南教育事務所も一体となって取り組むことが必要。

特に、新しい授業方法などの研究活動は、テレビ電話システムなども活用して、教育研究所と嶺南教育事務所が一体となって研究に取り組む体制を整えていきたい。
[教育長－田中宏典議員]

【「道徳」の教科化】

週１時間の「道徳の時間」に、本県独自の「心のノート」を作成し、橋本左内など福井の偉人から学び、道徳心を養う教育を行ってきたが、より多くの福井の偉人の生き様や、気概を紹介する教材作りを進め、「道徳の時間」に限らず、子どもたちのふるさとを思う心や、夢や希望を育てることに力を入れる。

国では、児童生徒の理解状況を把握する評価の在り方などについて検討を始めているが、道徳教育のあるべき方向性を広く議論していくことは大変必要であり、その際には地方の実情や学校現場の意見を十分に聞いて、検討されるよう働きかける。
[教育長－山本正雄議員]

【いじめ対策】

できるだけ早くいじめられている子の声をとらえ、早期解決を図るため、本県では、校長を中心に教員のチームで早期解決に努めている結果、昨年度のいじめ解消率については約９５％、前年比２０％割程度改善。新年度からは定期的に児童生徒のいじめを見過ごさないチェックシステムを新しく設け、より一層の早期発見、早期解決を進めたい。

また、幼児期は思いやる気持ちを育むなど人間形成の上で最も重要な時期であり、一昨年１１月設置した幼児教育支援センターが中心となり、保育士・幼稚園教諭への指導や保護者への家庭教育向上の支援を行っている。[教育長－中井玲子議員]

【福井ふるさと文学館】

全国一多くの県民が利用している図書館と文書館に併設することで、子どもから高齢者まで幅広く、たくさんの県民に、ゆかりの作家の文筆活動や文学作品の背景に触れていただくとともに、文学作品の貸出や、作品の時代背景となる古文書等の調査もできるという特色を持たせる予定。

また、新しい発見ができるフレキシブルな展示方法や、作家が直接語りかける映像や音声などできるだけ集め、文学に親しめる設備を整えるほか、小説だけでなく、評論、白川文字学、国語学など様々なものを全体に見ていただけるよう、新しいタイプの文学館を創り上げたい。[知事－糀谷好晃議員]

[答弁者－質問者]